

資料 4

府中市美術館の設置目的、基本的性格、現状と課題

(1) 設置目的、基本的性格

・「市民の心豊かな文化的生活の享受に寄与するとともに、地域社会における美術教育・美術文化の振興を図るため美術館を設置する」(設置目的 府中市美術館条例第1条)

・「生活と美術-美と結びついた暮らしを見直す美術館」(基本テーマ)

・美術館の基本的性格 (基本計画より)

- ①地域社会に根ざした親しみのある美術館
- ②質の高い美術作品を身近に鑑賞できる美術館
- ③市民や子どもの才能と美意識を育む美術館
- ④新しい美術情報を吸収できる美術館

(2) 現状

①美術館の概要

美術館は、館長(嘱託)、副館長、副館長補佐のもと、管理係(係長以下3名)が美術館の管理運営に関することを担当し、学芸係(5名)が展覧会をはじめとした美術館事業の実施、美術作品等の収集に関することなどを行い、また教育普及担当主査(1名)のもと、ワークショップなど様々な事業に取り組んでいる。施設は地下1階地上2階建て、延べ床面積約7,800㎡で、1階は、市民ギャラリーや講座室、美術図書室などがあるフリースペース(無料空間)である。2階は、企画展示室、常設展示室、牛島憲之記念館などがあり、有料スペースとなっている。2000(平成12)年10月の開館以来「生活と美術」という基本テーマのもと、「市民が優れた作品の鑑賞や学習、創作および発表活動を通して美術文化に対する親しみと理解を深め、心豊かな文化的生活を享受できる場となることを目的とする」(基本計画から引用)として運営を行っており、平成26年度は開館14年目となる。

②美術館の業務内容

企画展は、所蔵品展を加えて毎年5回開催し、人気の高い海外美術を紹介する展覧会から、江戸絵画、明治大正、昭和の近代美術、そして地域ゆかりの現代美術の紹介まで、ヴァリエティに富んだ企画を実施している。常設展示では、府中市と多摩地域ゆかりの美術作品をはじめとして、年間約4回の展示替えをしながら様々なテーマを設けて紹介している。教育普及事業では、市内の小学校、中学校と連携した美術鑑賞教室や教員研修会、アートスタジオ、各種ワークショップ、そして著名な美術家による公開制作を実施している。また、美術講演会、ギャラリートークを開催しているほか、ミュージアムコンサートなどさまざまなイベントを行い、市民の方々に気軽に美術館に足を運んでいただけるように取り組んでいる。さらに収集事業としては、購入、寄贈、寄託により、主に国内の近代以降の優れた美術作品を収集している。

(3) 課題

東日本大震災以後の社会情勢と市民ニーズに対応しながら、地域に根ざした市民美術館。「深くて、面白くて、地域に愛される美術館」を目指す。その課題は、次の通り。

(1) 質の高い美術を鑑賞できる内容の「深い」美術館とする。

基本テーマに基づき、企画展、所蔵品展、常設展、牛島憲之記念館、教育普及事業など、一段と質の高い美術鑑賞と関連事業を市民に提供していく。また、地域の美術研究を深めながら、寄贈を中心に作品の収集を進める。

(2) 展覧会や事業の広報に努め「面白い」美術館にする。また、マネジメントによる経営改善に取り組む。

魅力的な展覧会の開催、広報そして連携の充実による入館者の増大と歳入の増大につとめる。同時に、マスコミ・関係者の評判を高める。企画展の成功に向けて、人々の興味を刺激し、PRを進める。また、効率的な事業実施による歳出の削減を行う。カフェ、ショップ、そして受付・看視の改革に取り組む。

(3) メンバーシップ制度の改革を行って支援者を発掘する。また、市民との協働を推進し、「地域から愛される」美術館とする。

府中の森の文化まつりなど、各イベントの実施を通じて、近隣大学、地域の機関、市民団体、ボランティアとの協働をよりいっそう進めていく。また、アートスタジオと公開制作を中心に、教育普及事業の充実に努める。メンバーシップ制度の改革により、サポーターを発掘し、美術館への支援を拡大する。

(4) 地震など危機管理対応体制の充実を図り、安全で安らぎの持てる空間にする。

地震など危機管理対応体制の充実。来館者の避難誘導など、地震への対応を徹底する。危機管理マニュアルの徹底を図る。また、駐車場管理の見直しを行う。

(5) 報告・連絡・相談、情報の共有、計画の確実な実行を徹底する。

職員相互そして委託業者との会議は効率的に開催し、報告を行う。情報と課題・方向性の共有を徹底する。